

非フレイル群における歩行距離に注目した 新たな大腸がん術後管理の取り組み

研究の対象となる方

2020年2月～9月に当院でクリニカルパスに準じた大腸がん手術を受けられた方

目的・方法

“フレイル”は日本老年医学会が2014年に提唱した概念で、身体的機能や認知機能が低下した状態をあらわします。当院外科で以前行った大腸がん手術を対象とした調査では、術前よりフレイルを有する患者さんは、①術前より栄養状態が不良、②術後の早期離床が遅延、③術後合併症を発生しやすい、④術後在院日数が延長、⑤転院率が高率という結果が得られました。そこで、フレイルを有する患者さんには術前から各専門職が介入し早期対策を実施しています。

一方、フレイルを有さない患者さんは、フレイル有する患者さんに比べ良好な術後経過をたどることが多いです。しかしながら、フレイルを有さない患者さんでも術後離床の遅延や術後在院日数の延長を経験します。フレイルを有さない患者さんの術後の離床や日常生活の回復度合いの遅延の要因を解析するために術後の連続歩行距離を到達目標として段階的に設定しました。

今回の研究の目的は、フレイル有さない大腸がん手術患者さんに対して、術後の連続歩行距離を段階的に設定した到達目標の達成状況を解析し、早期離床や日常生活の回復度合いの遅延の要因、術後合併症や術後在院日数などとの関連を明らかにすることです。

研究期間

2021年10月～2022年3月

研究に使用する情報

年齢、性別、基礎疾患の有無、術式、術後合併症の有無、術後在院日数など。

この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

個人情報の取扱い

研究データは、患者さんを直接特定できる情報（お名前やカルテ番号など）を削除し匿名化した上で使用します。この研究成果を学会や学術雑誌などで発表する予定ですが、その場合でも上記のとおり匿名化していますので、患者さんのプライバシーは守られます。患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報は、本研究の責任者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。研究終了時は、研究に使用した情報を完全に抹消します。

お問い合わせ

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないものとさせていただきます。

で、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

連絡先	済生会熊本病院 リハビリテーション部 大崎敬之（研究責任者） 住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000（代表）
-----	---

以上